桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 32 号
発行日　2014.05.17
発行者　桜 船 会
発行責任者　萩原大義

2014.05.04　大賑わいの「さくら祭」

いきいきライフ：虚仮の一念　石井重行
いきいきライフ：人生到る処青山あり　野明宏亘
随想：柏木さんを偲んで　福田家樹
会社訪問：住環研をたずねて　櫻井貫智
会社訪問：ID 研をたずねて　藤本孝信
同好会：「ハイキング同好会」スタート　若林正雄
桜船会：2014 年度春の行事報告　行事班
事務局だより：桜船会同好会運営要綱　木村允紀、編集班

いきいきライフ

虚仮（こけ）の一念

石井重行

50 歳から始めた中国語学習だが、75 歳になってようやく当初の目標に辿り着いた。

当時 92 歳で、なお向学心が高かった母親に中国語学習の目標を宣言し、励まされたことを覚えている。

職場では台湾のメーカーとの交流が盛んで、若手には定時後社外から講師を呼んで中国語を研修させていた。しかし 50 歳の私は対象外で、その代わり台湾からの研修生に照明の基礎を教える仕事が与えられ、私も中国語を学習する必要を感じていた。さらに裸一貫から会社を興した兄が当時宮城県の泉市で日中友好協会の会長もしており頻繁に中国へ行ったりして、私も一緒に中国へ行く機会があったことも中国語を学ぶべきとする動機のひとつになった。

母はその年の秋に患い、昭和天皇と同じ日に同じ病で亡くなった。病院で母に付き添った数週間、母の傍らで中国語を自習したことも忘れられない。

当初目標は中国語検定２級合格とした。当時検定は準 4 級、4 級、3 級、準 2 級、2 級、1 級があり、2 級合格は「中国語を使用する実務に即時従事できる能力の保証」という評価であった。（その後英語検定などと段階を統一するためにそれぞれ準 2 級が 2 級に、2 級が準 1 級に呼称変更された。）

ちなみに準 2 級は「中国語を使用する実務能力の基礎づくり完成の保証」であり、当初目標をこの程度にしておけばその後の人生も違った展開になっていたことと思う。当初毎週 1 回、夜 7 時から 2 時間、中国留学生援護会主催の中国人留学生（主に横浜国立大学在籍）を講師とする教室に通っていた。中国語検定は 4 級から受験し 2 年後に 3 級を 2 回目でクリアしたが、3 級と準 2 級との格差は大きく、週 1 回レベルの学習では歯が立たないと思い悩んだ。

定年の 1 年前、定年まで待つ気持ちになれず退職を決意、59 歳から月水金週 3 回、中国語教室に通い始めた。もちろん、中国語教室に通えば済むことではなく、家でいつでも中国語の世界に浸れるように中国の国営テレビを観ることができる設備を設置した。知らない単語はカード化して持ち歩き、暗記することを習慣にした。そして 1 年半、準 2 級を 4 回目でクリアできた。以後 15 年、受験回数実に 37 回にして、75 歳になったら諦めようと思っていた、その最後のチャンスに合格できたのは、天佑のように感じている。なお、中国語検定協会の話では今回、60 歳以上の準 1 級の受験者は全国で 26 名、うち合格者は 2 名で私が最高齢とのことであった。

横浜日中友好協会には 1997 年に入会し、現在会計監査という肩書きだが大して役立っていない。今回私の準 1 級合格を機会に協会として合格者表彰制度を設け、私がその第 1 回の該当者としておこがましくも表彰状と記念品・金一封を頂く破目になった。

中国本土には天安門事件の翌年、兄にくっついて天津、北京、大連など 7 日間、その翌年には敦煌、ウルムチ、カシュガル、蘭州など 10 日間、94 年には兄姉私夫妻揃って桂林、広州、南京、蘇州、上海と 10 日間、いずれも兄の協会主催の旅に参加した。

99 年と 2000 年には横浜日中友好協会の関係で上海の同済大学にそれぞれ半月程度「短期留学」し、上海で生活し、付近を見物して歩いた。その翌年には横浜日中友好協会主催の山東半島縦断の旅に桜船会先輩の清水さんもお誘いして孔子の里などを遊覧した。以後、行きたい所もまだあるが、まず中国語の目標をクリアした上で、と自粛してきた。

59 歳時点では週３回、月曜は午前 10 時から 12 時・中国留学生援護会の自由会話クラス、水曜と金曜は夜 6 時半から 8 時半・横浜日中友好協会の検定クラスと中級クラスに通っていたが、いずれも 1 クラスの人数が不足すると解散となる規則がある。一方レベルの高いクラスほど人数不足となる傾向があってまず水曜の検定クラスがなくなり、月曜のクラスは火曜のクラスに合流して生き延び、73 歳の時に金曜夜のクラスが無くなった。これを機会に高校・大学以来続けてきた夜学生活と縁を切って、現在は火曜と土曜の週 2 回、午前 10 時から 12 時までの教室に通っている。

授業が終わった後、いつも講師や同級生の人達と食卓を囲んで昼食を共にしながら四方山話をするのが楽しい。とくに火曜日のクラスはいつの間にか私が最高齢となり、若くて才気溢れる人達と交流できる得がたい時間となっている。　□□□

いきいきライフ

人生到る処青山あり

野明宏亘

来年、平成 27 年（2015 年）は、戦後 70 年の節目の年を迎える。70 年の時の流れは永いようで短くも感じられる。時の節目は、通常の年と違って私どもにとってある格別の歴史的感慨を覚える。特に昭和 10 年代生まれで東京生まれの私にとって、昭和 20 年（1945 年）3 月の東京大空襲と同年 8 月の玉音放送は、幼な心の脳裏に残る原体験のようなものだ。

ところで、三菱電機は、大正 10 年の創立だが、大船の地に三菱電機が東方経営の拠点として大船工場を設立したのが昭和 15 年、来年は 75 周年の節目を迎える。今やどっぷり大船に浸かってしまった私にとって、このこともひとつのめぐり合せを感じる。

私は、昭和 37 年に三菱電機に入って 30 年の間、丸の内で 10 年、鎌倉で 5 年（鎌電）、伊丹で 8 年（中研）、そして最後に大船で 7 年（船電・情電研）勤めさせていただいた。その後も三菱電機エンジニアリング（鎌倉・大手町）に 8 年間勤務し、会社生活を終えた。この間、先輩、同僚、後輩を問わず、多くの方にご指導・ご鞭撻を賜り、またご迷惑もおかけした。感謝の念にたえない。それぞれの地において、交流のあった地域の方々にも同様の思いである。

退職後は地域において何かお役に立ちたい、一定の社会参画も続けたいとの志しで、折しも「特定非営利活動促進法」（通称 NPO 法）が制定・施行されて間もない時期でもあって、有志の方々と平成 13 年 10 月「ICP 鎌倉地域振興協会」という NPO 法人を立ち上げた。ICP とは Intelligent Cooperative Participation の略で互いに知的協調して参画するという趣旨である。そして、3 年前には鎌倉プリンスホテルで創立 10 周年の記念パーティを開くことが出来た。設立の準備や立上期に大変ご尽力をいただいた方々に深く感謝したい。「国寶史蹟研究会（創立昭和 11 年）」会長の八幡義信さんには、現在、理事長になっていただいている。地元の商工業者の集まりである「鎌倉深沢商工クラブ」にも大変お世話になった。平成 20 年にはその設立 30 周年記念事業の一環として小冊子「武家の古都・鎌倉〝世界遺産登録を目指して〞」を ICP が編集し限定発行させていただいた。鎌倉の世界遺産登録は、残念ながら昨年イコモスから、鎌倉の歴史的・文化的価値は評価されるも、これを立証する遺構が不十分ということで見送りとなった。

ICP の活動を説明すると、主に情報技術の普及とその利用・活用を通じ鎌倉の魅力を高め地域振興に資すること。最近では、鎌倉の自然や歴史・文化遺産を知り、愛し、育み、新しい鎌倉を創造する一環として講演会・散策・鎌倉料理コンテストシリーズを継続・実施している。これらを通じ中世鎌倉びとの息つかい・鎌倉の奥深い魅力を見出し発信している（http://icp2001mt.sakura.ne.jp/ 参照）。

また、ICP はかねて鎌倉デジタルミュージアム（電子博物館）構想を提唱してきた。最近では、御成小学校旧講堂の有形文化財登録とその修復改築・保存・活用の市民活動と連携してその実現に努力しつつある。御成小学校は発掘調査によりその校庭下に鎌倉古代の埋蔵文化財が発見されたところでもある。

このごろ、私が大船の町にくりだす専らの目的は、「文化交流サロン光」と名乗る碁会所である。囲碁の同好の士で立ち上げたのだが今年で 10 年になる。現在は鶴ヶ岡会館センタービル 3 階にあり、地域におけるコミュニティーサロン、交流・社交の場ともなっている。

今翻って、私の生き様を考えるに、先ずは企業人であったと同時に地域との調和、いわば、多様な Relationship を求めてきたことだろうか。私にとってもはや大船は離れ難い土地となってしまった。

この地にすっかり定着した三菱大船桜祭りは昭和 40 年に始まった。今年も沢山の人で賑わった。来年で区切りの 50 年になる。かって大船は映画の街であった。「撮影所のある街　大船物語」は昭和 63 年に発刊された。また、家政学教育の先駆者鎌倉女子大学の元学長が女子教育の真髄を綴った「花衣」は平成 9 年に発行された。さらに地域医療を代表する大船中央病院は、平成 18 年「半世紀の歩み」を発刊した。そして三菱は・・・。どなたか「三菱大船物語」を世に問うていただけないでしょうか。　　□□□

随想

桜木さんを偲んで（菱船会剣道部の育ての親）　福田家樹

昭和 42 年の春、入社早々の桜木さんに「剣道をやろう」と声を掛けた時から彼との交剣が始まりました。当時訓練生授業がありそのインフラを使い剣道部を創設して間もないことでしたので彼の入部は大歓迎でした。剣道部の活動は、毎週 2 回定時後卓球会館での稽古と毎年行われる全場所大会と日本武道館でのオール三菱の試合等に参加することでした。稽古後はよく好日荘に寄り、各地への遠征の帰途は車中で反省会を熱心にやったものでした。その時の桜木さんは、稽古量も相当でしたが酒も豪傑でした。

1967 年　日本武道館前にて
前列右から 2 人目が桜木さん、2 列目左端が筆者

20 数年このように続けてきましたが、昭和 63 年に私は転任し剣道から遠ざかってしまったことで桜木さんとの交流もほとんど途絶えていました。

定年退職を機に、また剣道を再開しようと早朝、旧船電体育館に出かけたところ、桜木さんを中心に情報総研・MLF の若い方々が稽古をしていましたので早速仲間に入れてもらうことにしました。この時、桜木さんは「六段」で十分風格貫禄を備えていました。しかし、早朝稽古もメンバーが転任・業務多忙などからだんだん減り、ついに桜木さんと私と二人だけになってしまいました。早朝稽古を休む旨を彼に伝えると「気にしないでください、一人で素振りをしますから」といつも答えてくれました。彼の努力ぶりを知らされたようでした。ある日、唐突に「七段に合格しました」と大変うれしそうに話をしてくれました。合格率数%の難関突破をお祝いした次第です。その後しばらくして、今度は私に六段の審査を受けるように勧めてくれました。「1 分 40 秒頑張りさえすれば何とかなりますよ」と励まされ、また約一年間彼の受験指導を受け放棄していた六段に無事合格しました。感謝感謝でした。

いつの頃からか近隣場所を交えての合同稽古後にジョッキを傾けるようになりました。話題は、剣道関連の話、船電での出来事、組合活動の話などにも及びましたが、徐々に彼の健康に関することが多くなりました。彼は病気の深刻さにも関わらず、平然とビールを傾けていたように思います。しばし深刻さを忘れた頃（平成 24 年初秋）「ついにドクターストップが出ました。このことは実は 2～3 年前から言われていたのです。」とのことでした。医者の忠告を無視？して稽古をしていたことの驚きと病魔が、急速に彼をより深刻な状況に追いやっているのを感じました。一方私は、彼は剣道をすることによって病を押さえこみ、また死の恐怖を追いやっていたのではないだろうかと想像しました。そしてその日から彼は剣道の活動をすべて停止しました。

彼はドナーが見つかったことと移植手術をした方の話を聞き非常に元気づけられ、強く生還の希望を抱いて手術に臨むように見えました。しかしその希望はかなえられませんでした。

50 周年の剣道全場所大会において桜木さんに審判長（大会委員長）を引き受けてもらう予定でしたが彼に黙祷を捧げる場になるとは思いもしませんでした。三菱電機剣道部にとって貴重な人材を失ったと思っています。

現在菱船会剣道部は桜木さんから指導を受けたメンバーに転任者や経験者さらに有段の新入社員が加わり、チーム編成すら困難な状況から現在では 2 チームも組めるように大きく発展しました。
育ての親としての彼は独りで素振りをしながら剣道部の発展ぶりを遠くから見てくれているだろうと思っています。　合掌

会社訪問

「おじゃまします」（住環研をたずねて）

桜井貫智

3 月 4 日（火）午後、労組経由でお願いしていた住環境開発センター（住環研）への訪問が実現した。今回対応して頂いたのは住環研のシステムエンジニアリング部実証グループの丸山 GR 殿で編集班の藤本班長と一緒にいろいろお話を伺った。

思い起こせば、筆者は 51 年前の 1963 年に現在の住環研の前身である商品研究所（商研）に入社し、異動になる 1970 年まで在籍した。その後商研は 1988 年に生活システム研究所（活研）に改組され、更に 1994 年には現在の住環研へと発展的に変貌をとげて現在に至っている。

筆者が商研にいた頃の印象と言えば、若くて美しいお姉さん研究者達が、時折炊飯器やレンジの試験で調理した珍しくて美味しい食べ物を持ってきてくれてご相伴にあずかったことや昼休み時間になると前庭がキャッチボールやテニスをする人で一杯となり、体育館ではバスケットボールやバドミントンをする人であふれていた印象が強く残っている。当時は皆が若く、筆者も青春の真っただ中にいて毎日がエネルギッシュに回転していた時代であった。現役時代に社内外のあちこちに異動した経験を持つ筆者にとって、会社生活を初めて体験した職場に格別の感慨を持つのは自然な情感ではないかと思う。蛇足になるが桜船会役員会で月 1 回のペースで大船の町を歩いているが、やはり思い出すのは好日荘や田園荘等の思い出で、いつの間にか自分の記憶と昔の懐かしい味覚を辿っている。

話しを本題に戻そう。現在の住環研はリビング・デジタルメディア事業本部の研究所、いわゆる事本研として事本内の各場所[中電、冷電、静電、京電、馬電、MHK（三菱電機ホーム機器）]に関連した製品の研究開発を担当していて、保有する基本技術としては「ネットワーク技術」「設計・評価技術」「冷凍・空調技術」「家電・電住機器技術」「要素技術」をベースにしている。

今回筆者が特に注目したのは家電製品単体の開発に加えて、より高付加価値な事業展開を図るため、住環境のシステム化を目指す「大船スマートハウス」で、同じ敷地内に 2 棟建てられている。
これはハウスメーカと連携した高断熱構造の住宅をベースに、自然エネルギーの活用（具体的には太陽光発電）と、高効率省エネ機器（例えば、冷蔵庫、エアコン等の各種家電機器）、そしてそれらを制御する HEMS（ホームエネルギーマネジメトシステム）を核とした安全・安心・快適を実感できる“これからの住まい”のあり方を実現しようとするもので、既に一部事業化も始めている。その中でも特に個人的に興味を引いたのは太陽光発電の昼間の余剰電力を電気自動車の大容量バッテリーに充電することにより災害等での停電時にも 1 週間以上電気的に自立できるようにしようという試みで、3 年前の大震災での悲惨な体験や地球温暖化問題等を考える時、今後の重要な方向性を示すものとして特に注目していきたいと思った。

さて最近国内では所謂「リケジョ」と言われる理系の女性研究者達が注目されているが、聞くところによると住環研の中でも家電開発部門等を中心に多くの女性研究者が活躍していて女性特有の感性を生かした製品開発を行っているという。日本では女性研究者の割合が増加傾向にはあるが欧米などに比べて未だ最低のレベルにあるとのこと。今後国内で急速に進む老齢化や人口減を考えた時、また家庭という実フィールドでいつも創意工夫しながら 3 現主義（現場・現物・現実）を実践している女性なればこそ、今後ますます新しい住環境の研究開発の場でその力を発揮して活躍して欲しいと思う。
併せて従来以上に同じ敷地内に立地する研究所群と技術の横通しを行って研究開発の相乗効果を発揮できれば良いのではないかと思う。

今回対応していただいた丸山様には、ご多忙中にもかかわらず貴重な時間を頂戴したうえ、いろいろ丁寧にご説明いただきありがとうございました。この場を借りて改めてお礼申し上げ、訪問記を終わります。（写真　左：丸山 GR、右：筆者）　□□□

会社訪問

「おじゃまします」（デザイン研究所を訪ねて）　藤本孝信

今回はデザイン研究所にお邪魔しました。会社のことですから変化は当然で 10 年も経てば別の会社って感じに違いない「〝モウカリマッカ〟と言うわけにもいかないな」と思いながら木村幹事に同伴させていただきました。展示室の案内など対応してくださったのは河原林源太開発戦略 GR と高砂英之ホーム第 3GR のお二方でした。

案内していただいたのは、プロダクトデザインの成果を見せる展示室、ユーザーが参加して「使い勝手」を評価・分析するユーザビリティ評価室、原寸で評価できる模擬車輌実験室や最近話題の「3D プリンター」などの設備です。所員は「Pro/E」でデータを作成し、退社時にセットしておけば翌朝にはモデルができているそうです。トレペの製図用紙で作図し、油土や発泡スチロールで簡易モデルをつくった世代からすれば「スゲ〜ッ」というところです。

三菱電機の組織的なデザイン活動の起点は 1946 年の本社生産技術部標準課とされています。「名は体を表す」ですが「標準課」と言う名称からは今日のデザインを想像するのは難しいです。ほとんど徒手空拳で突進して行ったのでしょう。それからの 68 年は、変化につぐ変化でデザインの考え方も方法も変わりました。これからも変化しますが企業が展開するサービスや製品の問題を「姿・かたち」にして解答・提示するという役割は変わらないでしょう。

しかし、「姿・かたち」がソコソコの出来栄えでは困ります。賞という賞を総なめにするなど、社会的な評価を得るだけではなく、顧客を唸らせ、息を飲む美しさでなければなりません。

「そんなことできるの？」ですが「ほとんど、できません」。第一次世界大戦以降の 100 年間で、優れたデザインは世界でも 50 程でしょう。入り口は広いが、出口は狭き門というか「地獄門」で、ロダンの「考える人」の脇を通らねばならない「キツ〜イ、お仕事」です。

それはともかく、右上図①は常設展示室にあったコンセプトカーです。「ナンジャコレ、車と言えばアレック・イシゴニス設計の MINI 以外にない」と言い張る頑固ジジイに文句はありませんが、それは 20 世紀の話です。文明批評的に言えば、20 世紀のデザインは芸術も技術も分化されない「テクネ」という概念の復興でした。モノは「秩序」「調和」「経済」という三つの原理で「かたち」づくられ、モノとモノの関係性や環境との融合を志向したのです。21 世紀では「電子の衣」が加わります。空間的調和だけでなく「情報」のつながりで「ムム〜ッ」です。

（下図は研究所パンフレットのコピーです）

③はトレインビジョンです。既に JR 東日本の山手線、京浜東北線、中央線の車輌に搭載され、私鉄では、小田急線、西武線、東急線の他に地下鉄東京メトロ・銀座線、丸の内線、千代田線等に装備され始めています。地味すぎるのか、鉄道マニアはまだ騒いでいませんが、スーパーの特売場のように紙の広告が並ぶ車内空間の革新が期待できそうです。②はユーザビリティ評価室です。

「電子の衣」は見えませんが、「黒衣の降下兵」として、視覚化したり、ユニバーサルデザインとして取り組む「Interface Design」や「Universal Design」という部門もあるようです。

高度化されたデザイン技術とは別に、期待したい「オープンレビュー」（上図④）があります。テーマを持つ担当者と全所員がデザインレビューをするそうです。担当者は TV 番組「TED」のプレゼンテーターのように上手いことやっているのか、所員たちは「ハーバード白熱教室」のように議論が盛り上がっているのかは解りません。しかし、新しい世代の人たちにも自由な議論こそが「力の素」です。

言葉や記憶は途切れ、デザインって何のこと？という日々の中で、昔の職場と「連戦連敗」の日々を思い出しました。ありがとうございました。　□□□

同好会　「ハイキング同好会」スタート

No.01

「鎌倉七福神めぐり」に参加して　　若林正雄

＜日時＞1 月 30 日（金）午前 10 時　JR 北鎌倉駅
＜順路＞
①浄智寺（布袋様：家庭円満の神様）
②鶴岡八幡宮（弁天様：芸の神、財運を招く神）
③宝戒寺（毘沙門天様：病魔退散、財宝富貴の神様）
④妙隆寺（寿老人様：長寿の神様）
⑤本覚寺（恵比寿様：商売繁盛、五穀豊穣の神様）
⑥長谷寺（大黒様：出世、海運の神様）
⑦御霊神社（福禄寿様：知恵の神様）
＊午後 3 時江ノ電長谷駅解散（予定通り）

＜感想＞

私はこの時期を彷彿とさせる「春は名のみの風の寒さや・・」と歌う唱歌〝早春賦〟の歌詞とメロディが大好きです。早春の古都鎌倉の「七福神めぐり」は、まさにその歌詞のごとく、厳しい寒さの中ですが、訪れた神社、仏閣の境内のそこここに、水仙や梅花の蕾がみられ、うっすらと花の香が漂って、もうすぐそこに春爛漫の時期がこようとしている様子が感じとれました。そのような風情の中、約 5 時間（約 1 万 5 千歩）終盤はうっすらと汗もかき、皆さんと楽しく談笑し歩きました。

昼食は八幡宮小町通り付近の福本事務局長推薦の中華店「紅虎餃子房」にて生ビールで乾杯し、皆で餃子定食他に舌ずつみを打ちました。

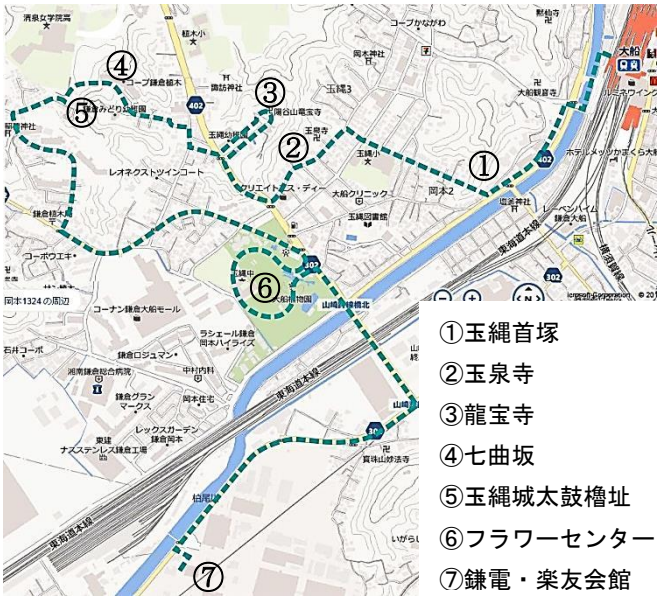
退職し早や三年、健康で妻と共に鎌倉「七福神めぐり」ができ、今の自分に小さな幸せを感じました。

お誘い頂いた「ハイキング同好会」の皆さま他ご同行の皆さま、お蔭さまで楽しいハイキングができました。ありがとうございました。　□□□

行事班　桜船会：2014 年春の行事（報告）

「大船玉縄城址とフラワーセンター散策」＆鎌電・楽友会館での会食

＜日時＞3 月 25 日（火）午前 10 時 JR 大船駅出発
＜順路＞



①玉縄首塚
②玉泉寺
③龍宝寺
④七曲坂
⑤玉縄城太鼓櫓址
⑥フラワーセンター
⑦鎌電・楽友会館

▲玉縄さくら

▲楽友会館・昼食会

参加数：43 名（家族 4 組含む）

永年大船で仕事してきたのに西口のこんな所歩くのは初めてだよという方や、植木アパートで新婚時代を送られて「この辺はなつかしいな～」という方もいらっしゃいました。最後は、ほどほどにアルコールもついた「鎌電楽友会館」での美味しい「幕の内弁当」で、楽しかったですよね。

コース最後のフラワーセンター園内の「玉縄さくら」が満開でした。１本だけだったのが一寸淋しかったですが、「玉縄さくら」という名を初めて知りました。「河津さくら」には負けますが、地元の名前のついたさくらが満開だったのを見ることができました。フラワーセンター内での一番の収穫でした。

（文は福本事務局長のメールより抜粋）　□□□

事務局だより

桜船会同好会運営要領

木村允紀

桜船会会員の趣味の会である同好会を発足させることを桜船会だより 31 号にて、ご通知しましたが、下記の通り同好会運営要領を定めました。

また、「ハイキング同好会」、「デジカメ同好会」が発足しました。これらの同好会に参加ご希望の方、また、新しい同好会を立ち上げたい方は桜船会事務局宛お申し越しください。

桜船会同好会運営要領

1.目的
桜船会において趣味を同じくする会員が集い、相互の親睦を図る。

2.構成
同好会メンバーは桜船会会員に限り、五名以上により構成されるものとする。

3.名称
各同好会の名称はメンバー相互の意見により自由に名付けるものとするが、表現は「桜船会○○○同好会」とする。

4.役員
各同好会には代表 1 名、会計 1 名を置く。同好会の状況に応じて副代表、その他の役員を置くことができる。

5.役員の職務
＊代表は同好会を代表し、同好会の企画運営を司る。また、桜船会役員会との連携を図る。
＊副代表は代表を補佐し、代表事故ある時は同好会会務を代行する。
＊会計は各同好会の経理会計を担当する。

6.役員の選出
同好会発足時は提案者が一年間代表となり、他の役員を任命する。その後は同好会メンバーの互選により選出する。

7.役員の任期
役員の任期は二年とするが再任は妨げない。

8.桜船会への登録
各同好会は発足時点に下記項目を桜船会会長に登録する。＊同好会名称
＊代表者ほか役員名、およびメンバー氏名
＊同好会の趣旨および活動概要

9.活動
＊各同好会は年間最低 2 回以上の活動を実施するものとする。
＊各同好会は桜船会の各年度末に活動報告を桜船会会長に提出するものとする。
＊桜船会同好会班長は活動報告を会報に、適宜編集をして掲載するものとする。

10.会費
各同好会の会費は同好会メンバーの総意により自由に決定する。

11.支援
各同好会へは桜船会より年間一万円を支援するものとする。支払日は活動報告提出の翌会計年度の総会終了後とする。請求手続きは別途、桜船会同好会活動支援要領に定める。

12.桜船会への協力
各同好会は桜船会活動への協力を要請されたときは可能な限り応じることとする。

13.その他
この運営要領にない事項あるいは不都合が生じた場合は、桜船会役員会において協議し処理する。

[記]この運営要領は平成 26 年 3 月 20 日開催の桜船会役員会で承認されたものである。

■会員動向（敬称略）

・会員数：301 名（平成 26 年 3 月現在）
・平成 26 年度入会者（6 名）
三宅　真、金田敏雄、 新明政信、 市川伊佐夫、千葉　勇、菅原作雄
・平成 26 年度退会者（13 名）
宮本護之、西形忠一 、橘　為広、西　信、桜木章恵、近藤勝勇、山崎　肇、出口博久、長窪弘幸 、稲垣勝美、小池義和 、宮入練太郎、古谷　実

■編集後記

投稿くださった皆さま、紙面の都合で何度も改訂をお願いしました。改めて感謝です。同好会が発足しましたので、ご活用ください。（藤本）

編集責任者：藤本孝信
編集委員　：木村允紀　桜井貫智　佐藤秋雄
印刷所　　：（株）さんこうどう